

各 位

高知県病虫害防除所長

病虫害発生予察情報について

平成24年度病虫害発生予察技術情報資料(第8号)の送付について

---

**ナスすすかび病の今後の動向に注意！！**

(1)発生状況

平成25年3月4日に発表した平成24年度病虫害発生予察2月月報にも記載しましたが、2月下旬に実施した巡回調査では、ナスすすかび病の発生面積が全県的に多くなっています。促成ナスの主産地である県東部及び中央部で平年に比べやや多～多発生となりました。また、栽培面積に占める発生面積の割合は、県東部で91.7%、中央部でも85.7%と平年を大きく上回っています(第1表及び第1図)。現在のところ、発病程度は、県内各地とも少発生程度で平年並の発生水準(データ省略)となっていますが、毎年栽培終了期に向けて発生面積が増加することから、本年においても、今後の気象次第では、病勢が進展するほ場が多く出る可能性がありますので、今後の発生動向に十分注意してください。

(2)今後の気象

平成25年3月2日～4月1日までの四国地方の今後1ヵ月の気象予報(平成25年3月1日、高松地方気象台発表)では、天気は数日の周期で変わり、平年に比べ晴れの日が多い見込みです。気温は、平年並または高い確率ともに40%です。降水量は、平年並～少なく、日照時間は、平年並～多いと予想されます(表2)。

3月の1週目、2週目ともに、気温が高い状態が続く見込みで、夜間加温機の稼働時間が少なく、ハウス内が多湿状態になることが予想されます。

(3)防除対策

【耕種的防除】

- ・気温25℃内外で多湿条件が発病に適するので、日中の換気の徹底や夜間・早朝の加温、水管理などに注意し、ハウス内湿度をできるだけ下げようにしましょう。
- ・罹病葉は摘除し、二次伝染の防止と次回作への伝染源除去に努めてください。
- ・根傷みや肥料の濃度障害、あるいは着果過多による草勢低下などは発病を助長する可能性が高いので、施肥その他の栽培管理を適正にし、草勢維持に努めましょう。

【薬剤防除】

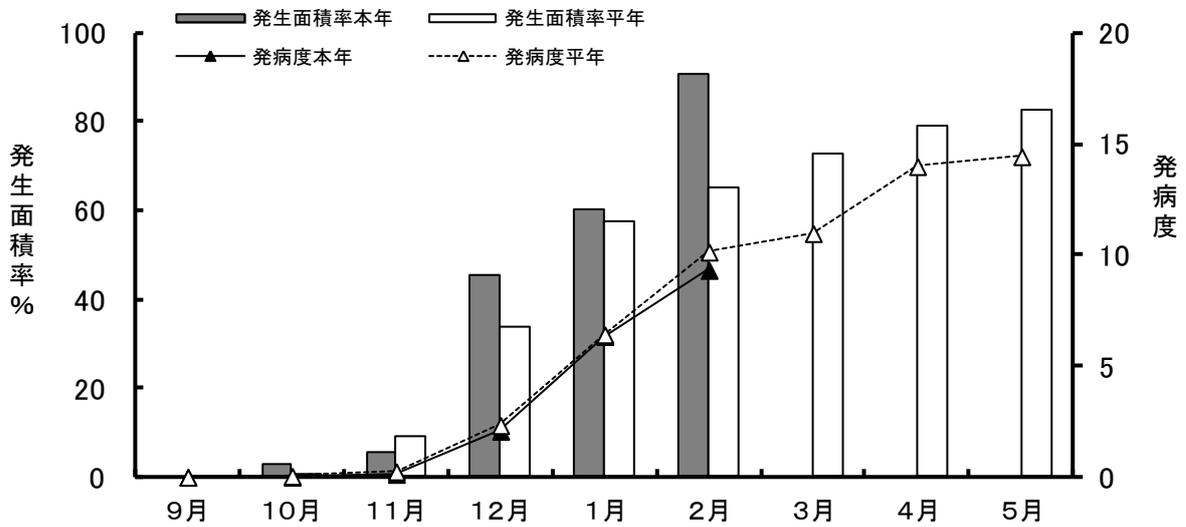
- ・多発後の防除は困難であるため、薬剤防除は発生初期から予防を主体に行いましょう。
- ・病斑が多数ある罹病葉は、薬剤が付着しにくく、防除効果が劣るので、できるだけ摘除しておきましょう。
- ・薬剤耐性の発現を防ぐため、別紙の参考資料及び県防除指針を参考に、同系統の薬剤を連用することは避けましょう。

第1表 ナスすすかび病の発生面積及び発生面積率

2月下旬調査結果

	発生面積		発生面積率	
	本年	平年	本年	平年
東 部	252.1ha	184.9ha	91.7%	67.2%
中央部	24.0ha	12.5ha	85.7%	44.6%
西 部	7.5ha	7.2ha	75.0%	72.0%
合 計	283.6ha	204.6ha	90.6%	65.4%

栽培面積 ナス:東部275ha、中央部28ha、西部10ha 合計313ha



第1図 県全域のナスすすかび病の発生面積率と発病度(対平年値)

発病度: 発生程度を示す指数 発病度 1~20は発生程度が少  
 21~40は発生程度が中  
 41~60は発生程度が多  
 61~ は発生程度が甚

第2表 1ヵ月の気象予報(平成25年3月2日から4月1日までの気象見通し)

要素	地域	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気 温		20%	40%	40%
降水量	四国地方	40%	40%	20%
日照時間		20%	40%	40%

注)平成25年3月1日に高松地方気象台より発表

－ ナスすすかび病の防除に関する参考資料（農技センター病理担当より） －

**耐性菌情報その1： カンタスドライフロアブルに対するナスすすかび病耐性菌**

・県東部（田野町、安芸市、芸西村、香南市）でカンタスドライフロアブル耐性菌の発生が確認されています。

下の表は、各農薬の希釈液をナス苗に散布後、あらかじめ培養していたカンタス耐性菌と感受性菌を接種し、すすかび病菌がどのように広がるかを調査したものです。感受性菌にはカンタスドライフロアブルは非常に有効ですが、耐性菌にはほとんど効果がありません。

接種した菌株	菌採取市町村	ナス1株あたりの病斑数		
		水（対照）	カンタス DF	アフェットフロアブル
カンタス耐性菌1	芸西村	147	55	1
カンタス耐性菌2	芸西村	223	127	5
感受性菌	田野町	261	1	6

（※病斑数は3株の平均値）

・このようなカンタス耐性菌の発生が県東部（田野町、安芸市、芸西村、香南市）で、27ほ場中22ほ場が確認されています。

・現在のところ、南国市以西では耐性菌の発生は確認されていません。

・カンタス、アフェットは、ダコニールやベルコートと比べて耐性菌が発生しやすい農薬です。連用は避けて下さい。

**耐性菌情報その2： トリフミン乳剤に対するナスすすかび病耐性菌**

・県全域でトリフミン耐性菌の発生が確認されています。

・調査した26ほ場全てでトリフミン耐性菌が検出されました。

調査市町村： 田野町1ほ場、安芸市3ほ場、芸西村5ほ場、夜須町1ほ場  
香南市12ほ場、高知市1ほ場、大月町3ほ場

・トリフミンの予防的散布を行った場合、耐性菌による発病は抑えられませんが、発病時期を2週間ほど遅らせることはできるようです（植物防疫 特別増刊号 No12）。

・発病後にトリフミン耐性菌に対し、トリフミンの散布を行っても抑制効果はないようです（植物防疫 特別増刊号 No12）。

・トリフミンと同系統の薬剤であるラリー水和剤、ルビゲン水和剤には交差耐性が確認されています。よって、トリフミン耐性菌に対しては本来の効果は期待できません（植物防疫 特別増刊号 No12）。